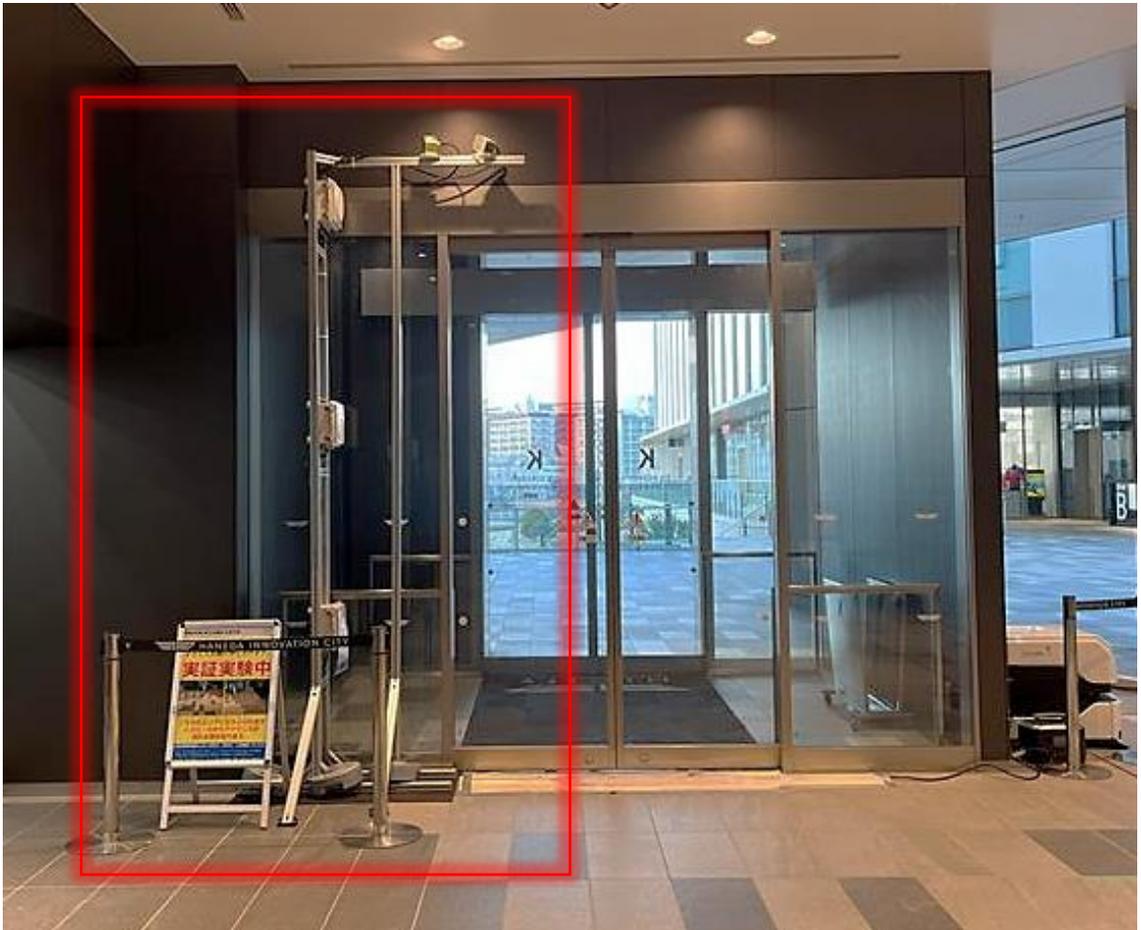


羽田イノベーションシティで 仮設置された見守りスピーカー (K棟)



令和6年度 国土交通省 スマートシティ実装化支援事業 -公共空間の回遊性の向上・地域活性化を狙ったLiDARの 検知機能を活用した滞留散会誘導サービス-

システムについて

LiDARセンサーで物体を検知⇒システムで状況进行判断⇒設定条件により必要な人に通知、という検知～アクションを一連で行うシステムです。

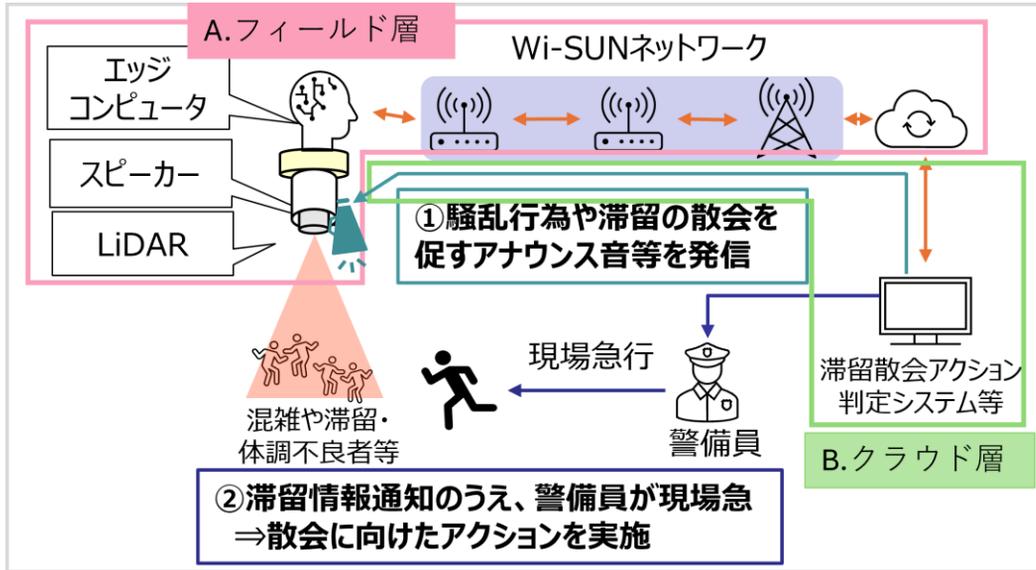


図1.システム全体像※1

A.フィールド層・LiDARセンサーによる物体の検知情報から、物体の場所や体積を算出し滞留判定を行う。また、通信はWi-SUNネットワークを介して行われる。

※LiDAR：物体や、物体との距離をレーザー光を使って検知する。

※Wi-SUNネットワーク：通信速度は遅いが、通信距離が長く繋がりやすい。

加えて、低消費電力の無線であり持続可能な無線。

B.クラウド層・フィールド層から受け取った情報によって実行アクションを判定し、「アナウンスを流す」「担当者への通知」等のアクションを実行する。

街での活用イメージ

本システムは図2に示すように、「滞留」のみならず、手助けが必要な方や体調不良者の手助け等にも活用可能と考えられます。

また、LiDARセンサーの特性から暗所での活用も可能なため夜間警備への活用も期待できます。さらに画像を取得しないため、個人情報取得せず防犯に役立てられます。

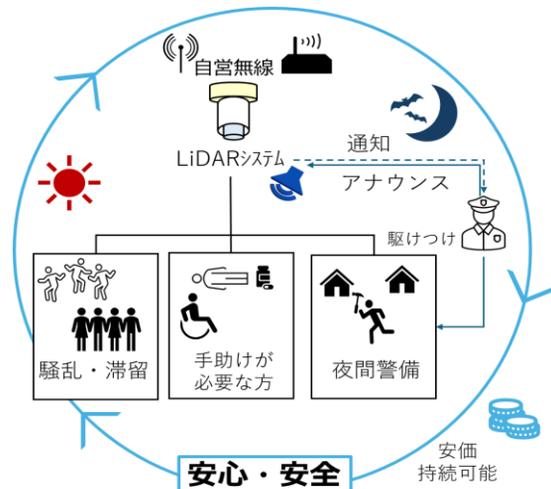


図2.システムの活用イメージ※2

※1,※2:国土交通省、2024年6月21日、13地区の先進的なスマートシティプロジェクトの支援を決定～令和6年度スマートシティ実装化支援事業の選定～

添付資料「別紙 R6支援地区 (PDF形式)」、国土交通省ホームページ、(2025年1月20日、

<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001749336.pdf>)を参考に加筆修正し作成

令和6年度 国土交通省 スマートシティ実装化支援事業 -公共空間の回遊性の向上・地域活性化を狙ったLiDARの 検知機能を活用した滞留散会誘導サービス-

実証実験について

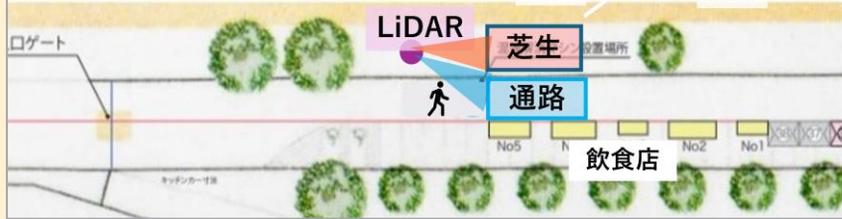
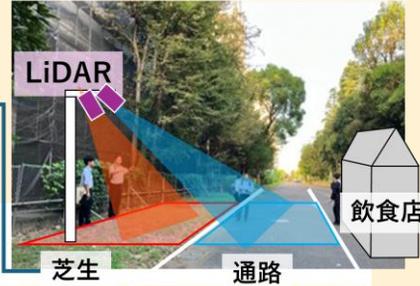
「OTAふれあいフェスタ2024」と「羽田イノベーションシティ」
の2箇所でサービス実証実験を実施しました！

課題と解決策

課題
芝生の滞留
による混雑お
よび通行へ
の支障

解決策
LiDARを用いた
人流計測による、
芝生を対象とし
た滞留検知及び
散会アナウンス

解決策のイメージ



▷ OTAふれあいフェスタ 2024

□実施日時

2024年11月2日～3日

□概要

イベント時混雑エリア
における通路の滞留解消促
進、および立ち止まって
ほしくない芝生での滞留
検知時のアナウンスを実
施。社会実装性・サービ
ス効果を検証。

設置場所 (LiDAR×2・スピーカー×1)

検知エリア



例) K棟の検知エリアの様子



▷ 羽田イノベーショ ンシティ

□実施日時

2024年12月9日～26日、
2025年1月14日～17日

□概要

「通行の妨げになる
ような滞留」の散会
を目的としたアナウ
ンス、および散会不
可時の防災センター
警備員への連携を実
施。社会実装性・社
会受容性・サービ
ス効果を検証。